

# 最近の豪ドル相場の動きについて ～投資対象としての魅力を再確認

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

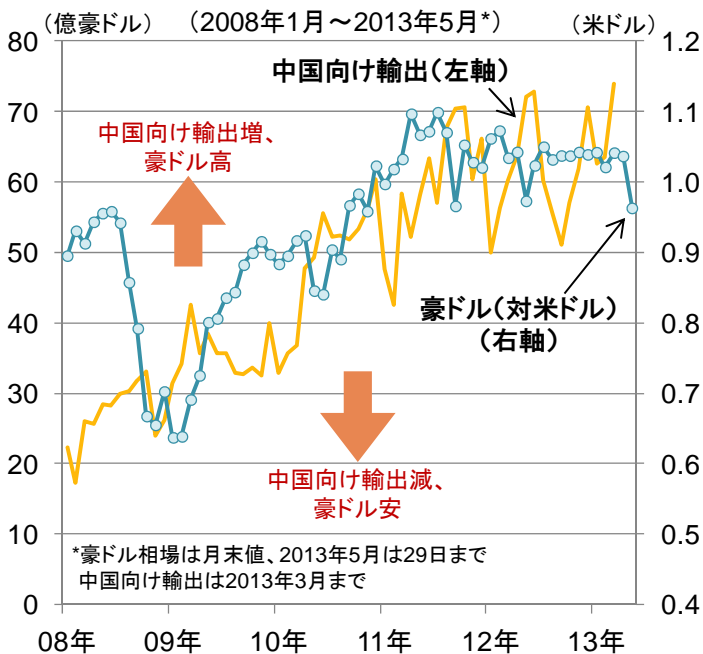
nikko am  
fund academy

豪ドルは、4月10日に対円で105円台、対米ドルで1.05米ドル台へと上昇しましたが、4月15日に発表された中国の2013年1-3月期のGDPが市場予想を下回る内容となり、オーストラリア最大の輸出先である中国の景気減速懸念が強まったことから、一転して軟調な動きとなりました。5月7日に、RBA(豪州準備銀行)が予想よりも早いタイミングで利下げに踏み切ったことで、先々の利下げが意識されたことも影響したとみられます。さらに足元では、中国の製造業の景況感が悪化したことや、FRB(米連邦準備制度理事会)が量的緩和の縮小に着手するとの観測が拡がったことなども重なり、急速に豪ドル安が進みました。

今後も中国景気の減速や、政策金利の引き下げ、米国における量的緩和の規模縮小などが意識される局面では、豪ドルが弱含む可能性があると考えられます。しかしながら、中国景気は昨年後半を底に緩やかながらも回復傾向にあることに加え、主要銀行による新規融資額が大きく増加しており、資金供給量の増加が今後の景気回復を下支えするとみられます。また、米国の金融政策の変更は、相当に米国の雇用が回復した時であり、その場合は米経済を牽引役に、世界的に景気回復ペースが上がることで株高・商品高につながり、それを通じたリスク許容度の拡大や資源高が豪ドルを押し上げていくものと期待されます。

なお、オーストラリアは、健全な財政規律や、人口の増加を背景に潜在成長率である3%程度の経済成長率をおおむね維持する見通しであること、先進国の中で相対的に高い金利水準などから、投資対象としての魅力は引き続き高いと考えられます。

## 豪ドル(対米ドル)相場と中国向け輸出の推移



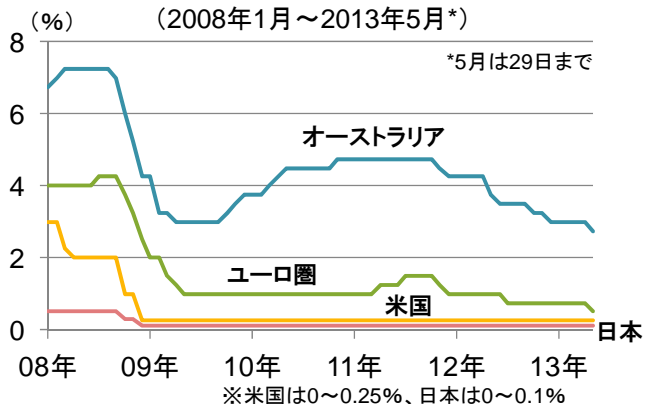
## オーストラリアの経済成長見通し

(単位:%) \*2013年以降はIMF予想

| 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 |
|-------|-------|-------|-------|
| 3.58  | 2.96  | 3.31  | 3.05  |

(出所:IMF「World Economic Outlook, April 2013」)

## 主要先進国の政策金利の推移



(オーストラリア統計局および信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。